

千葉公園通りの未来を考える  
ワークショップ成果ブック -2022-

令和5年6月  
千葉市



RESULTS OF WS 2022

Chiba  
Park  
Street

## はじめに

公共空間の利活用可能性を検証するために実施したウォークブル社会実験や千葉公園再整備のほか、民間主導による千葉公園通り歩行者天国（ちこほこ）が定期的開催され新たなにぎわいが生まれるなど、千葉公園通りにかかわる状況がここ数年で大きく変化しています。

そのような中、2022（令和4）年度は実際に利活用する「ひと」を中心に考えた道路改修を検討するべく、地域住民や事業者と共にワークショップ（以下WS）を開催し、議論し意見を共有しました。本書は千葉公園通りWSを通じて、千葉公園通りに愛着を持った皆様と共につくり上げた成果ブックです。

※ウォークブルとは、道路・公園・民有地などを一体的に活用し、ひと中心の豊かな生活を実現するために、都市全体として「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を目指す取り組みのこと。

## 目次

千葉公園通りについて	01
2022年度の動き	02
まち歩きWS	03
第1回WS	04
第2回WS	05
第3回WS	06
WS成果まとめ	07



## 千葉公園通りとは

千葉公園通りとは JR 千葉駅千葉公園口から、千葉公園への経路となる延長約 340m 幅員約 8m の道路です。



通りの千葉駅側は、飲食の店舗が多く面しています。通りへの入口右側の花壇では、地域の皆さんによる定期的な花植え等も行われています。

中央部は住宅が多く、事業所や整骨院などの店舗も点在していますが、全体的に落ち着いた通りとなっています。

千葉公園側は道路を挟んで、千葉公園と面しており、少し広くなった空間があり、ベンチや照明灯が配置されています。

## 千葉公園通りでの取組

### 【千葉公園通りの位置付け】

千葉市では、2020（令和2）年8月から、千葉公園通り及び千葉駅西口駅前を対象に、道路や公園の公共空間を市街地と一体的かつ日常的な利活用可能性を検証するとともに、多様な人が多様な使い方のできる「居心地の良い空間づくり」を推進するための「ウォークラブル社会実験」に取り組みました。

社会実験の対象となっていた「千葉公園通り（市道弁天31号線）」は、千葉駅周辺の活性化グランドデザイン（※）において、千葉駅から千葉公園へと続くアプローチとして位置付けられており、千葉駅北エリアのまちづくりに寄与する骨格となる通りです。歩行者中心の空間としてその具現化を目指しており、道路改修を予定しています。加えて、千葉市では千葉駅北エリアのまちづくりの核となる千葉公園の再整備を進めており、千葉公園へのアプローチとなる千葉公園通りでは周辺と連携し、事業を進めていくことで相乗効果が期待されます。

### 2020年～2022年

#### ●千葉都心ウォークラブル推進社会実験（CHIBA Noki Nyoki Project）（2020年9月～2022年8月）

ウォークラブル社会実験で道路、公園の公共空間と市街地の一体的かつ日常的な利活用可能性を検証しながら、多様な人が多様な使い方のできる居心地の良い空間づくりを推進しました。またこれは3密を回避した飲食店のテラス営業、感染リスクを抑えた屋外空間での過ごし方など、ポストコロナの新しい日常への対応も見据えた取組みでもあります。

#### ●千葉公園通りホコ天（ちこほこ）（2022年9月～）

「千葉公園通りホコ天（ちこほこ）」とは千葉公園通りの車の通過交通を制限し、歩行者天国（ホコ天）化することで道路上を活用した様々な取組や滞在性向上に繋がる椅子やテーブルなどの什器の仮設的な設置を可能にし、実際に道路空間を活用する取組です。

「ひと中心の住みやすい・過ごしやすいまち」を目指し、千葉公園通り周辺の生活環境向上を図るための手段として、非日常のホコ天開催を通じてひと中心の生活環境づくりを目指しています。



### 2022年～

#### ●基礎調査：千葉公園通りまち歩き・WS（2022年9月～2023年3月）

社会実験の成果を踏まえ、当該エリアにおける通りの将来像を明確にし、実際に利活用する「ひと」を中心に考えた道路改修を検討するために、地元住民や企業などの関係者が参加する形でのWSを実施しました。

今後も引き続き千葉公園再整備との調整を図りつつ、将来像の検討を目的としていきます。

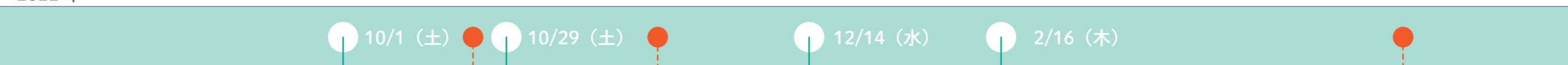


※「千葉駅周辺の活性化グランドデザイン」：千葉都心全体の将来像や取組みの方向性を明確に示した計画。



千葉公園通りの道路改修に向けて計4回のWSを開催し、地域の皆さんの意見を集めました！！

2022年 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月



千葉公園通りまち歩き WS  
千葉公園通り WS

まち歩き WS → p03

第1回 WS → p04

第2回 WS → p05

第3回 WS → p06

計4回のWSの意見を踏まえ本書と「道路改修イメージ/ロードマップ」を作成予定



チラシやニュースレターでの周知

千葉公園通りホコ天 (ちこほこ)

10/22 (土)  
●秋ちこほこ・ちこほこつながるマルシェ  
8月までの千葉市主催の体制から民間主体の体制に変わり、初めて開催されました。千葉公園ではホコ天と繋がるように「ちこほこつながるマルシェ」も同時に開催されました。

11/5 (土)  
●MTBちこほこ  
「Urban MTB Festival in千葉公園2022」の開催に合わせ、ホコ天が実施されました。

3/26 (日)  
●花見ちこほこ【雨天中止】  
2023年最初のホコ天がお花見の時期に合わせて開催される予定でした。

●各WSの内容

**まち歩き WS (2022/10/01)**  
実際に千葉公園通りの周辺を含めまち歩きを実施することで、千葉公園通りの課題とポテンシャルを把握しました。

**第1回 WS (2022/10/29)**  
課題とポテンシャルを踏まえて、「千葉公園周辺エリアでどのように暮らしたいか」将来像をイメージしました。アイデアが広がった将来像を実現するために、千葉公園通りではどのような使い方ができるかを議論しました。

**第2回 WS (2022/12/14)**  
千葉公園通りを3つにエリア（千葉公園側、中央、千葉駅側）分けし、各エリアのテーマを設定しました。

**第3回 WS (2023/02/16)**  
今までのWSで議論した成果を踏まえ、千葉公園通りホコ天（ちこほこ）で試してみたいことを具体的に意見交換しました。

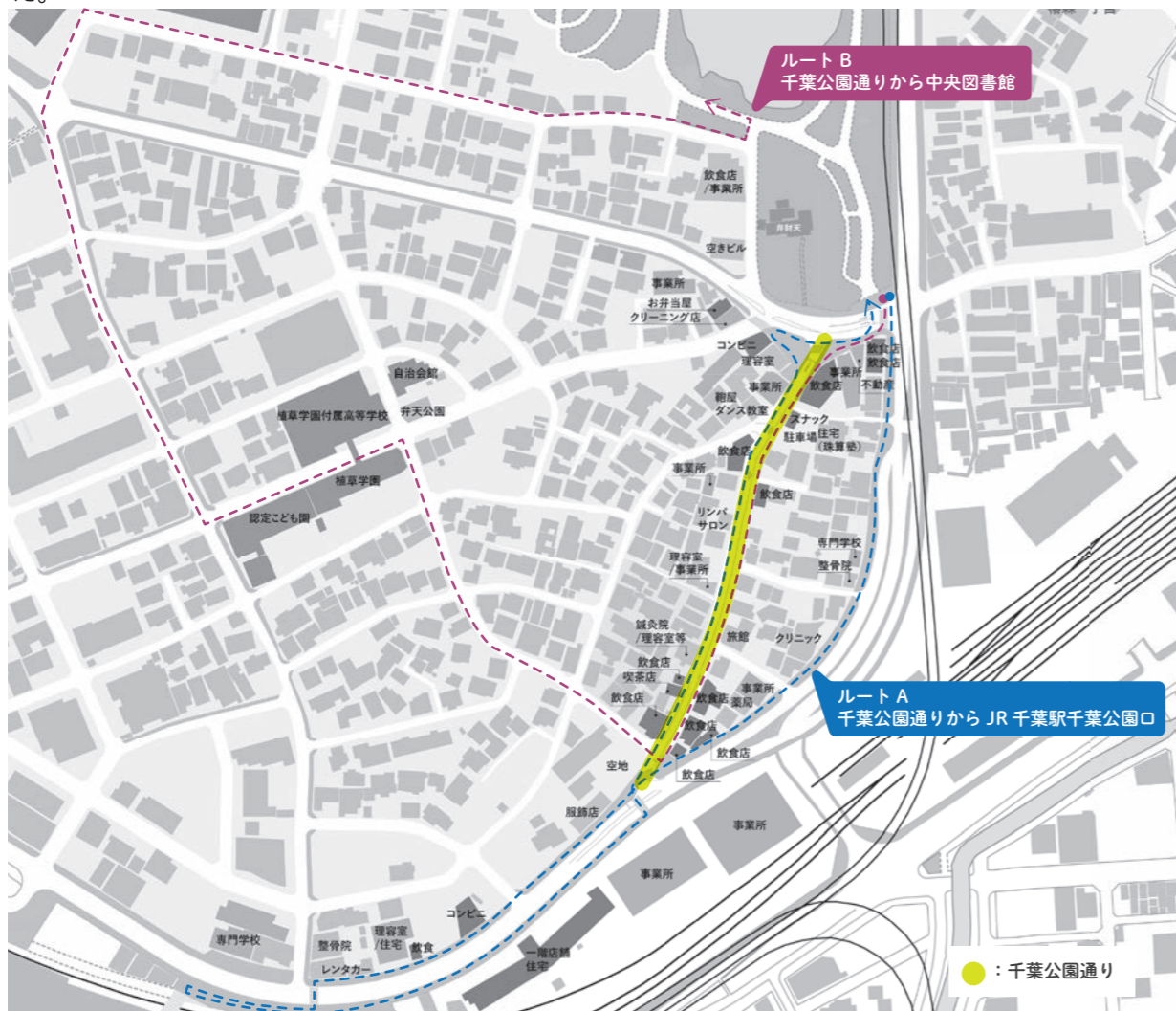
次のページから各WSの意見と成果を紹介します！



千葉公園と駅との接続や、通りへ来るための目的や安全性について確認

まち歩きは、実際に通りを歩きながら課題・ポテンシャルを見つけることで、場所に即したより効果的な検討を行うことを目的に、2022年10月1日に実施しました。

地元関係者からなる参加者が4つのグループに分かれて、JR千葉駅千葉公園口までのルート（ルートA）と千葉公園から中央図書館や植草学園前を通過するルート（ルートB）の2つの順路で実施しました。



【まち歩きの様子】



千葉公園周辺らしい穏やかな雰囲気の中、課題・ポテンシャルが見つかりました

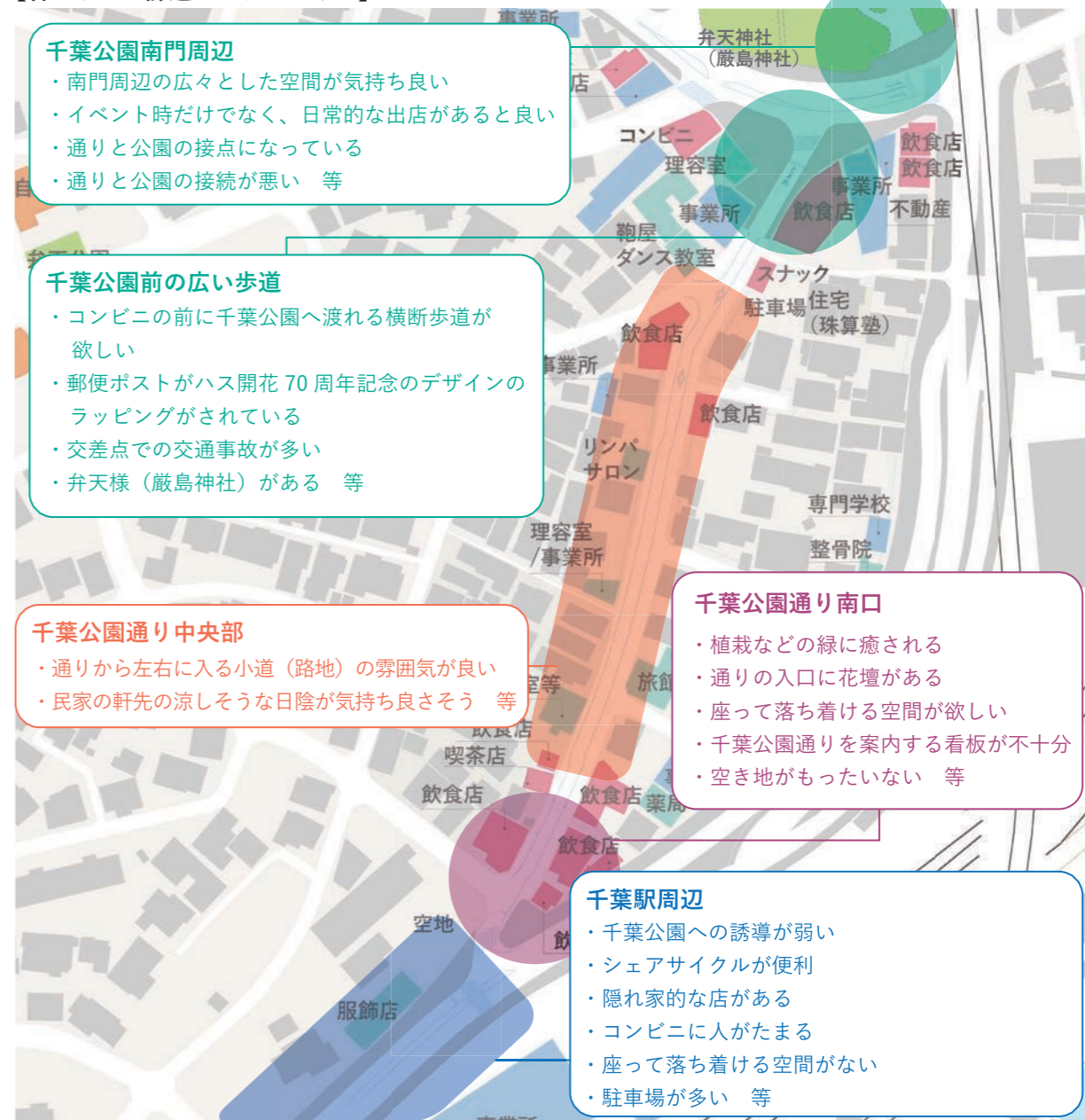
千葉公園通りは、約340mの延長の中で「店舗が多いエリア」、「住宅が集中するエリア」、「公園へと接続するエリア」など、それぞれの特性が異なります。エリアごとに課題・ポテンシャルを抽出することで整備の方針を定めやすくなります。

地元住民や企業などの地元関係者とともに、まち歩きを実施し課題・ポテンシャルを整理しました。

【千葉公園通り全体への意見】

- ・千葉公園周辺エリアとしては、穏やかな雰囲気である
- ・空き店舗、空間の活用可能性がある
- ・来る目的や、人が集まるデザインのある空間への転換（ベンチ、キッチンカーなど）すると良い
- ・千葉公園通りの中に店舗と住宅が混在しているので、バランスの良さや統一感のある空間だと良い
- ・歩行者からすると、通過する車、自転車が怖い
- ・舗装を改善すると良い

【各エリアの課題・ポテンシャル】





千葉公園周辺エリアでの将来的な過ごし方が共有されました

千葉公園通り道路改修に向けて、千葉公園周辺も含めたエリアで将来的にどのような暮らしがしたいかを、千葉公園通りだけでなく、広い範囲で検討する必要があります。第1回WS前半では、千葉公園周辺の千葉駅北エリアにおいて時間帯ごとの将来的な過ごし方をイメージしました。

**朝** 主なキーワード 朝活／朝市／地域との交流／鳥の声／コーヒー／気分を上げる／お気に入りの場所

朝早い時間から運動や充実した時間を過ごしたいと望む意見が多くありました。周辺施設の図書館や千葉公園に加えて、朝早く営業しているカフェなどにおいて、勉強や朝市や散歩など、地域全体で朝を有意義に過ごせるような将来像が導かれました。

- アイデアキーワード
- ・図書館で朝活
  - ・南門で朝市
  - ・散歩やヨガ
  - ・気持ちよく通勤
  - ・コーヒーを飲む
  - ・お花見
  - ・早朝に近所の人と交流する
  - ・千葉公園南門で子供のフリマ
  - ・千葉公園周辺でランニング
  - ・芝生に座って鳥の声を楽しむ
  - ・公園の自然を楽しむ
  - ・千葉公園前の広い歩道空間で卓球

**昼** 主なキーワード 趣味／ピクニック／自然と触れ合い／憩い／一人でも楽しい／ランチ／水・公園遊び

近隣店舗で購入しての食べ歩きや食事のできる場所など、屋外へのニーズや、趣味のスポーツや楽器演奏などといった将来像が導かれました。家族や子ども、同僚など、昼間ならではの多様な属性のニーズがこのエリアに求められています。

- アイデアキーワード
- ・公園通りで交流
  - ・食べ歩き
  - ・公園内の広場で焚き火
  - ・同僚とティータイム
  - ・ウエディング
  - ・千葉公園でピクニック
  - ・カフェで友人家族と楽しむ
  - ・ギターやウクレレをする
  - ・子供たちとスケボー・BMX
  - ・孫と綿打池で釣り
  - ・子供と綿打池で泥遊び

**夜** 主なキーワード 夕活／飲む／安心・安全／リラクゼーション／ディナー／エンタメ

安心安全に過ごせることを前提とした、千葉公園のデートスポット化、近隣店舗での飲食後にのんびり散歩や、ダンス練習などの意見が見られました。屋外だからこそ感じられる夜間の居心地の良さが求められています。

- アイデアキーワード
- ・家族とディナー
  - ・通りから公園にかけてのイルミネーションや花火
  - ・映画
  - ・パーティー
  - ・近隣店舗で飲んで、散歩する
  - ・安心安全
  - ・植栽などのライトアップ
  - ・ダンス練習ができるようにガラス面に前に街灯のもとダンス練習

【第1回WS】

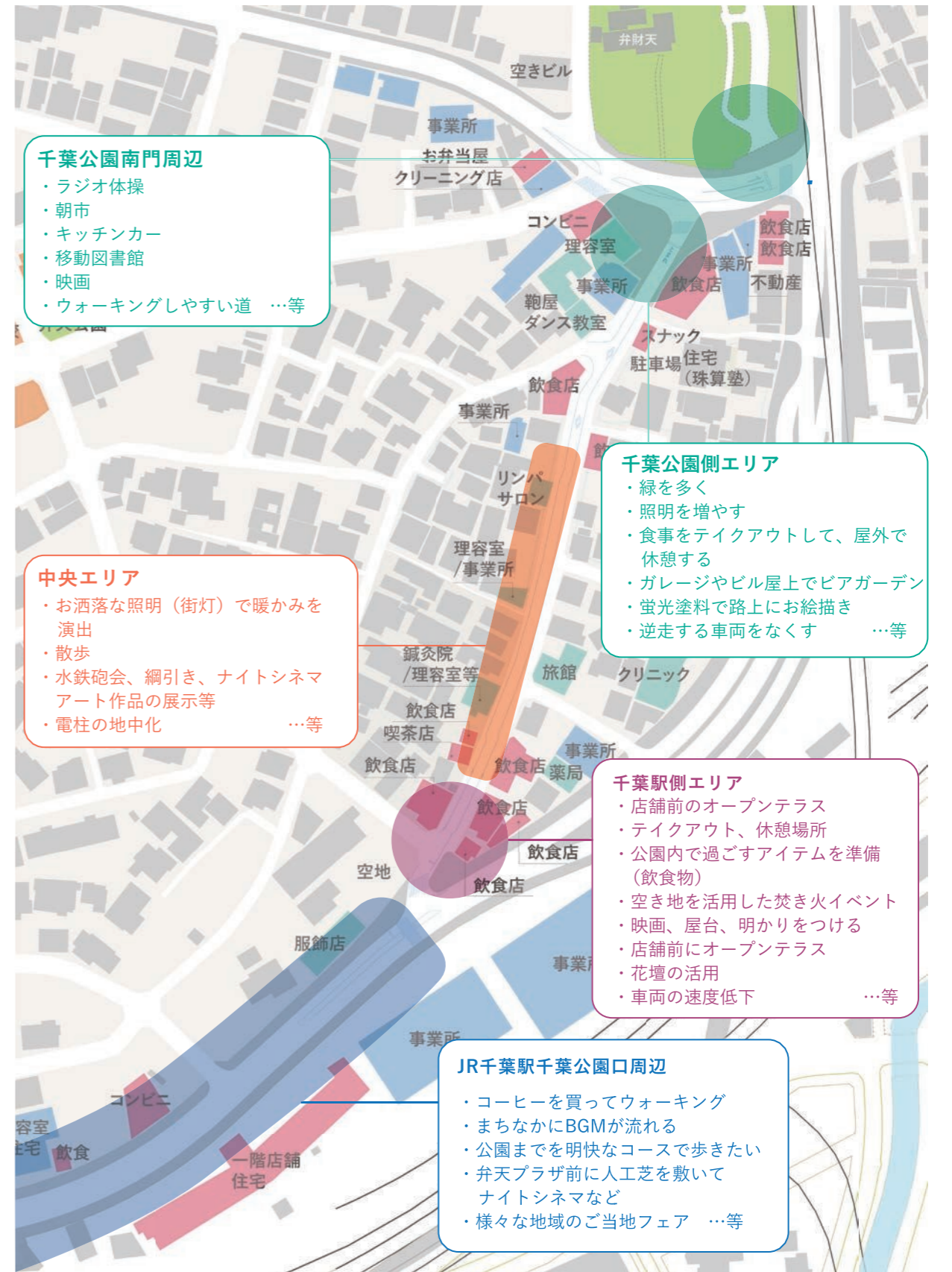
第1回WSは10/29（土）千葉公園内の蓮華亭で実施しました。ここでは千葉公園通りだけでなく、千葉公園を中心とした千葉駅北エリアにおいて、暮らしの将来ビジョンを支える千葉公園通りの将来像を議論しました。



ビジュアルインスピレーションカード  
多様な活動が記載されている画像を見ながら柔軟に「新しい暮らし」を想像できる

各エリアの特性に合わせた暮らしの将来像を設定しました

第1回WS後半では、千葉駅北エリアでの過ごし方に加えて、千葉公園通りではどのような過ごし方ができるかを議論しました。各エリアでの使い方や機能の意見を下記に示します。





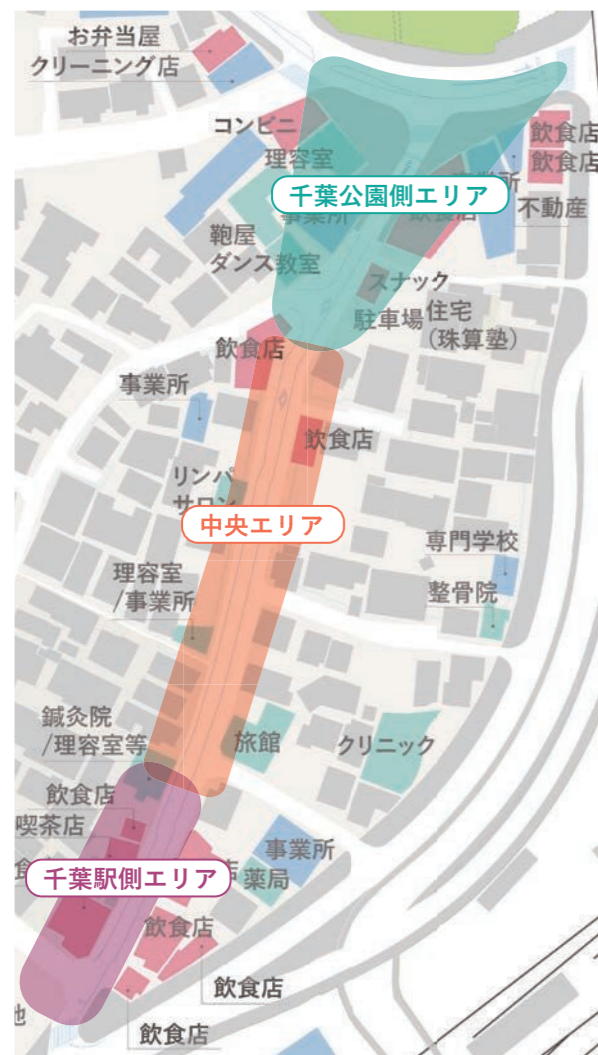
千葉公園通りは『移動と滞留が共存するシェアードストリート』を目指します

エリアの将来像を叶えるために、千葉公園通りは、歩行者と車のそれぞれが共存する「シェアードストリート」を目指します。

第2回WSでは上記のシェアードストリートの考え方のもと、3つのエリアで重要なポイントを議論しました。下記に示す参加者の意見を踏まえて、エリアごとのテーマを右記のように設定しました。

【WSでの意見】

	千葉公園側エリア	中央エリア	千葉駅側エリア
滞留	No.1: 緑がつながる No.2: 公園通りらしさを感じる No.3: 好きな時にイベントができる	No.1: ゆっくり座れる No.2: 緑や情報などで公園らしさを感じる No.3: 好きな時にイベントができる	No.1: 公園通りらしさを感じる No.2: ゆっくり座れる No.3: いつも店と一体的に(道路を)使える
移動	No.1: 夜間でも安心できる No.2: 歩行者を気にして車がゆっくり通行 No.3: 人も自転車も共存して、地域の情報が分かる	No.1: 歩行者を気にして車がゆっくり通行 ・車を気にせず歩ける雰囲気があると良い ・歩車共存が大事だが人が優先される道路の作り方+規制のあり方	No.1: 地域の情報がわかりやすい No.2: 車が便利に通行できる No.3: 沿道に歩いて楽しめるものがある
意見まとめ	・千葉公園との緑のつながりなど公園らしさを感じる ・公園に近接するゾーンとしてのアクセスのよさを向上 ・コンビニ前の開けた空間を仮想的に活用してイベント利用	・歩行者が歩きやすい環境づくりと規制のあり方 ・公園通りらしさとイベント等の情報共有	・通りの入口や交差点としてのわかりやすさ ・公園へと続く通りの入口らしいアピールポイント



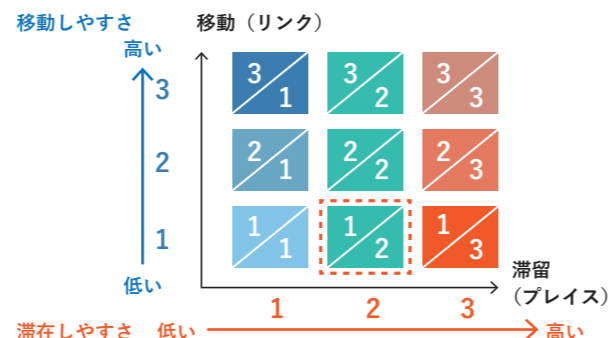
【第2回WS】

第2回WSは12/14(水) 弁天公園横の弁天会館で実施しました。千葉公園通りの将来像を実現するために交通等の移動と滞留の2つの観点から議論をしました。道路という特性上、人や自転車、車の通過を妨げずに滞在性を向上するために、何が重要かを議論しました。



【移動と滞留の考え方】

ロンドンのUCL (University College London) のPeter Jonas教授が提唱した理論です。道路における移動と滞留の指標が3段階ずつ設定され、計9個の状態を示すことができます。

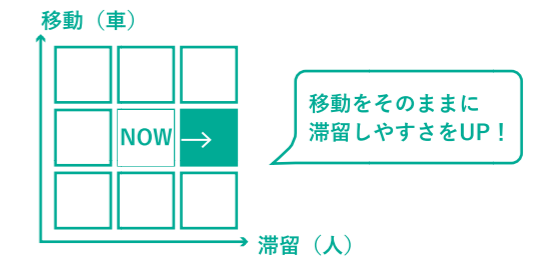


千葉公園通りを3つの特性の違うエリアに分け、各テーマを設定しました

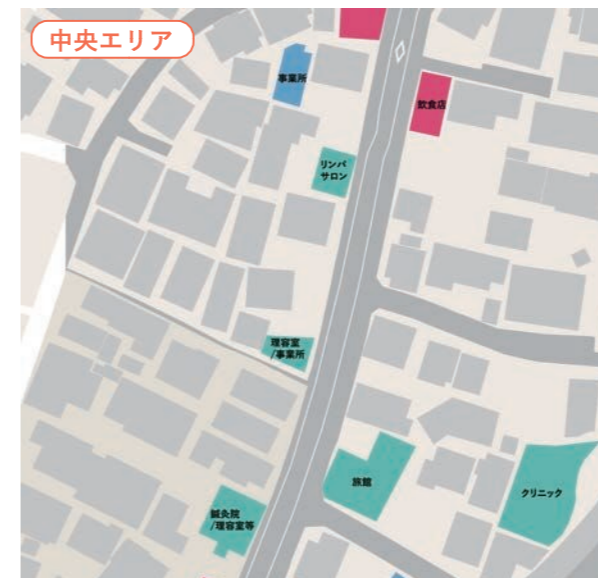


<テーマ>

公園と相対した緑の拠点づくり

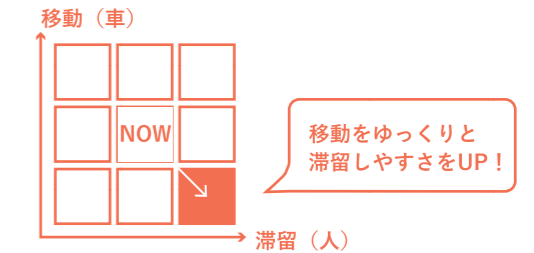


- ・公園通りらしさを感じる
- ・仮想的に活用してイベント利用(公園通りの顔となる滞留空間としてつくりこむ)
- ・緑をつなげる(千葉公園を相対する緑の広場)
- ・地域の情報が分かりやすく表示されている(サイン整備・地域の情報)



<テーマ>

安心安全で歩きたくなるまちの散歩みち

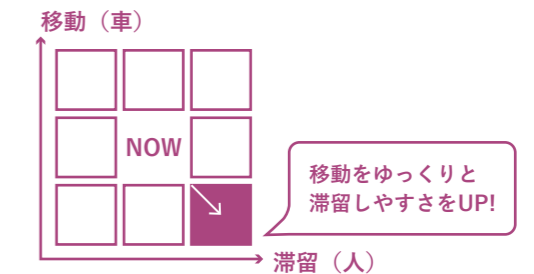


- ・夜間も安心安全に歩ける環境
- ・スラローム化
- ・日常の移動の快適性を高める
- ・仮想的な利活用ツール
- ・地域の情報が分かりやすく表示されている



<テーマ>

公園通りの顔となる、沿道と連携した拠点づくり



- ・公園通りの顔とわかる拠点づくりと交通安全対策の両立
- ・飲食店が集まるエリアとしての利活用
- ・通行する人にとって沿道の壁面や店舗前に滞留しやすい設えなど見え方が重要



ちこほこを題材により具体的な千葉公園通りへの提案を議論しました

第3回WSでは、まち歩き、第1回、第2回と重ねてきたWSでの意見をまとめ、各エリアのテーマを設定した上で、2023年のちこほこ（千葉公園通りホコ天）で試してみたいことをグループで議論しました。

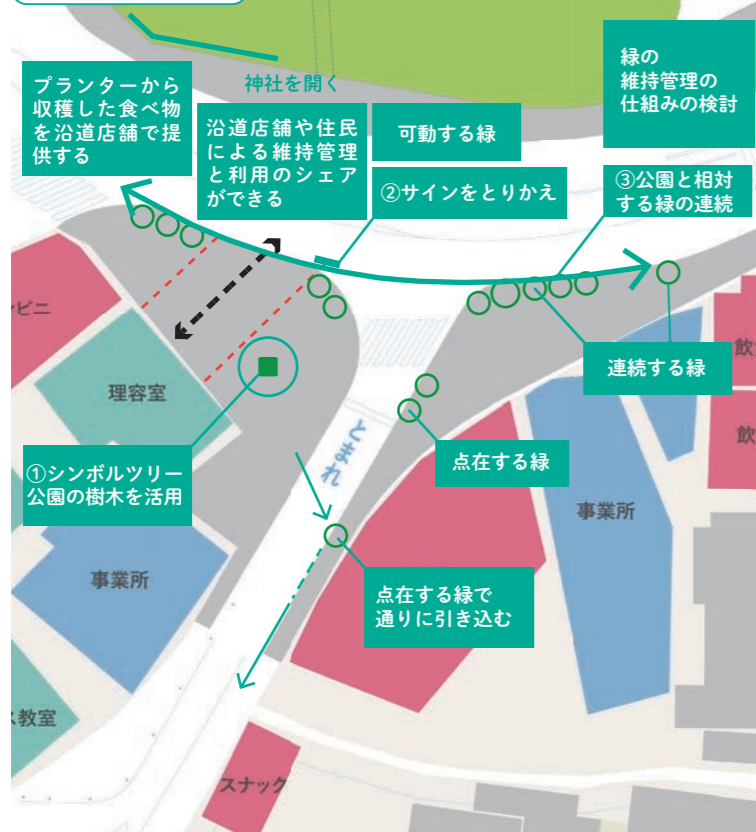
【第3回WS】

第3回WSは2/16（木）に実施。3つのエリアごとにグループで分かれ、2023年のちこほこを見据えて、より具体的な設えや過ごし方について意見交換をしました。ハード面に加えて、維持管理の仕組みなどの意見も見られました。



各エリアの重点ポイントや通り全体で目指すべきイメージが導かれました

千葉公園側エリア



【意見まとめ】

- ・照明柱があるところに代わりにシンボルツリーを設置 (①)
- ・サインをもっと魅力的にして、エリアの全体像がわかるように (②)
- ・千葉公園に相對する緑として、線状に緑を配置して公園と公園通りとの緑のつながりを出せるとよい (③)
- ・プランター設置後の維持管理の仕組みの検討が必要  
(例えば食べられる植物を導入し飲食店の料理に使えると良い)
- ・弁天神社（巖島神社）の柵に統一感があると良い



【意見まとめ】

- ・ベンチは利用者が車に対し、危険を感じるので、緑や壁などで囲いを併設してると良い
- ・スラロームは良い。ハンプは速度抑制に効果を発揮すると思うが、それ自体の色が景観に影響与えるので、通りとして統一感の出る色が良い
- ・緑も大きめのプランターで、折りたたみベンチがついていたりすると、イベント時も使いやすい。ベンチ設置位置は店舗前が良い
- ・イベント情報などが更新される掲示板が欲しい
- ・イベント時には掲示板が変形して屋根になるなど、ひとつの機能にとどまらない設備があると良い

千葉駅側エリア



【意見まとめ】

- ①可動するもののアイデア
  - ・派手な看板で人目を惹きつける（子どものWS、地域でつくるなど作り終わった後もきてくれるような仕組みで制作する）
  - ・千葉公園の大賀ハスを通りに配置
  - ・公園に人々を呼び込むための情報を提示（公園の開花情報など）
- ②道路改修へのアイデア
  - ・太陽の位置が夏と冬で変化するので歩きたい場所が違う→植栽プランター等で可動式の歩車区分ができるのではないかな
  - ・車道の色を歩道と同系色・同素材にするだけでも車は速度抑制をするのではないかな
  - ・千葉駅の千葉公園口から千葉公園まで道路にライン（カラー舗装や舗装材の区別）やサイン（距離や方角の表示）等を施すことでつながりや方向性を示したい



計4回のWS → 千葉公園通り道路改修の4つのポイント

計4回のWSで導かれた意見をもとに道路改修の目的と4つのポイントを設定します

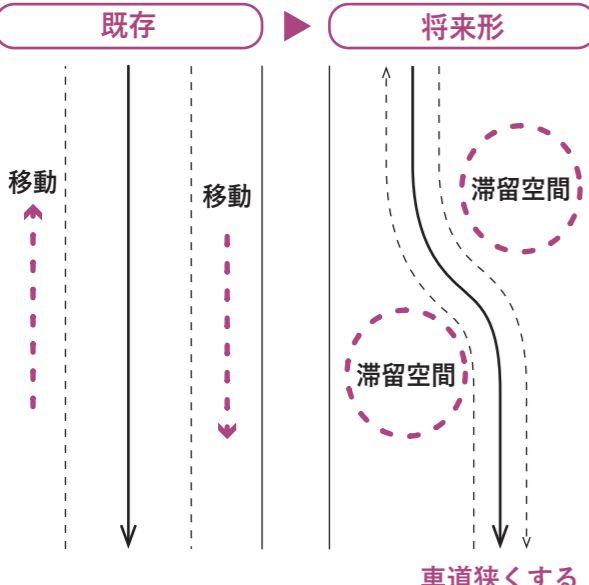
【千葉公園通り道路改修の目的】

これまでのWS等の意見を踏まえ、千葉公園通り道路改修の目的を下記のとおり示します。

- ①人が歩きやすい道路の創出（車の速度抑制）
- ②人が滞留できる空間の創出
- ③公園通りらしさの創出（緑／入口の設え）
- ④昼間／夜間の安全性向上

【4つのポイント】

1. 道路線形のフレキシブル化による滞留空間づくり



車道幅員を狭くして、時と場合によってフレキシブルに使うことで滞在性向上を目指します。最低限の車道幅員を確保しながらも左右の歩道に幅員を効果的に配分することで、より多様な利活用を進めることが可能になります。ベンチや植栽などの設置が滞在性向上に寄与するだけでなく、素材や形状によっては通過車両の流入を抑制することができます。

1

事例①さかさがわ通り（川崎市）



事例②シャワー通り（札幌市）



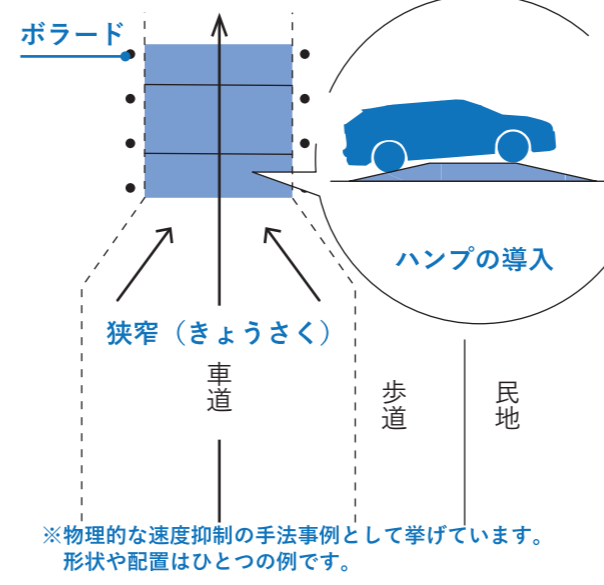
事例③神門通り（出雲市）



事例④本町通り（松山市）



2. 狭窄（きょうさく）、ハンプなどによる速度抑制



千葉公園通りの活用や歩行者の滞在性向上には、既存の車の通行状況を改善する必要があります。これまでの社会実験における道路の活用をハード的に後押しするための操作が必要です。車の通行を妨げることなく、速度抑制することで車と歩行者の共存を図ることができます。また、分かりにくい交通標識等の改善を行うなどで交通秩序化を図る必要があります。

2

事例①ハンプ：葎合54号線（神戸市）



事例②ハンプの社会実験（静岡市）



事例③狭窄（きょうさく）：長門湯本温泉街（長門市）



事例④クランク道路（高槻市）

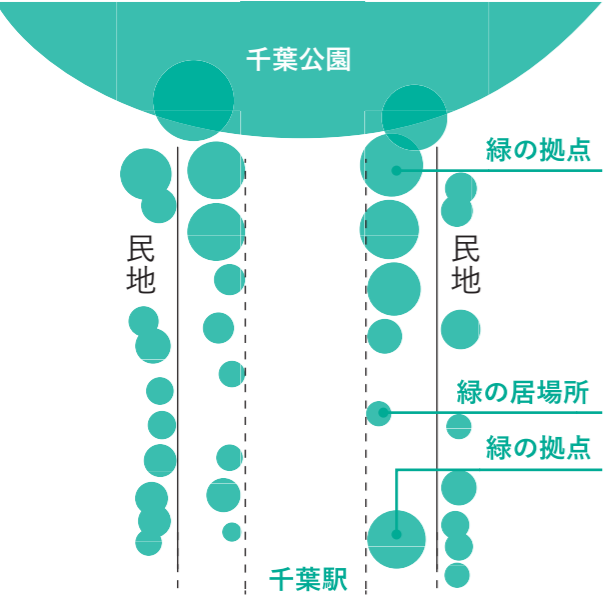




計4回のWS → 千葉公園通り道路改修の4つのポイント

計4回のWSで導かれた意見をもとに道路改修の目的と4つのポイントを設定します

3. 緑による公園通りらしさの向上



これまでのWSの中で「公園通りらしさ」への意見が多くありました。駅と公園の間の人の動きを促進するために、千葉公園通りへ緑を配置することで、公園が近くにあることを駅から来る人にも印象付ける必要があります。緑の配置には、街路樹のほか、プランターの設置など幅広い手段が考えられます。サインなどの情報だけでなく、空間の質自体が少しずつ公園に近づいていくような雰囲気を出すことが重要です。

3

事例①: 本通・船町商店街 (福山市)



事例②: グリーン大通りから南池袋公園の道 (豊島区)



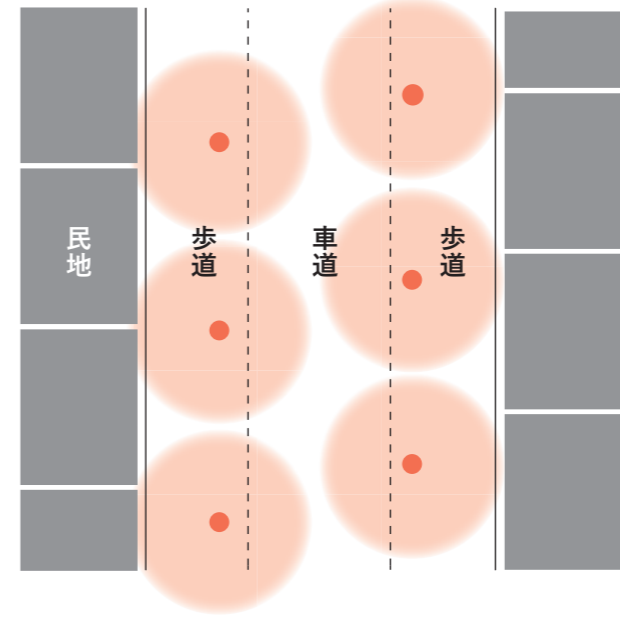
事例③: 花園町通り (松山市)



事例④: 元町商店街 (横浜市)



4. 照明による夜間の安全性向上や雰囲気づくり



夜間の安全性や日常的に利用する住民の方々へも配慮した照明の配置を行います。千葉公園通りの高質化や駅から公園までの連続性を演出することで、公園までのアプローチとして認知されます。また、バナーを付けられる照明柱とするなど、千葉公園通りのブランディングや千葉公園のイベント告知など周辺への情報周知を図ることもできます。

4

事例①: グリーン大通り (豊島区)



事例②: 花園町通り (松山市)



事例③: カミハチキテル (広島市)



事例④: 長門湯本温泉街 (長門市)

